

飛鳥時代から続く日本文化の出発点、そして女性活躍の時代。

飛鳥時代とは西暦592年から710年頃にかけて現在の明日香村近辺に都が置かれてきた時代を指します。つまり日本の中心は明日香村周辺にあったということです。

飛鳥時代は歴史の変動も多く、有名な話としてはまずは、日本初の女性天皇である推古天皇と聖徳太子による日本の政治・文化の改革でしょう。中央集権国家体制の確立、十七条憲法の作成、仏教・神道の興隆など、摂政としての聖徳太子の功績が目に入りがちですが、東アジアでも前例のない女王が国を統治するということは、高い政治手腕が必要となるはずで、当時の有力な豪族などをまとめ上げたその能力は日本を代表する「キャリアウーマン」といっても過言ではないはずです。そして斉明天皇、持統天皇と三名の女性天皇が即位し「女性が大きく活躍した」時代でした。そして斉明天皇の親友であるとされる中臣鎌足の主導のもと「大化の改新」が行われ豪族を中心とした政治から天皇中心の政治へと移り変わる現在の日本の政治・文化の基盤が作り上げられたとされています。



偉人が残した知識から生まれた「稲渚の棚田」



遣唐使・遣隋使などにより、さまざまな文化・知識・技術が一挙に集まった飛鳥の地で、都が遷移した平安～室町時代に稲渚の棚田は開墾されたそうです。その設計は非常に巧妙で、飛鳥川の流れを巧みに利用し時には川の流れを変え、なだらかな傾斜面に300枚あまりの田畑が作られていきました。いわば、多くの知識人と技術者による日本の成長の過程でこの美しい景観が生まれたのです。古代の中心地は稲渚の棚田の北部で飛鳥（遠つ飛鳥）と呼ばれており、現在の明日香村は10の集落が時間を分け合併して出来た村となります。

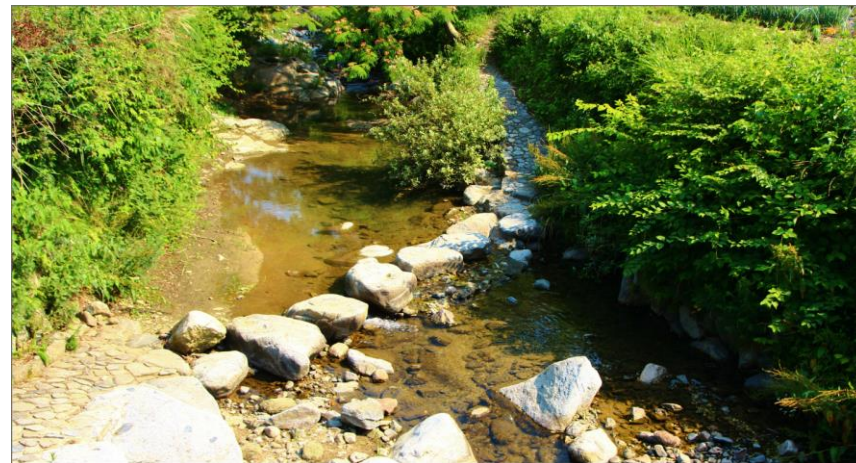
また、ここ稲渚の棚田には春には菜の花が、秋に掛ければ黄金の稲穂と赤黄と色づく彼岸花が咲き誇り、それは美しい景観となります。集落は人の出入りも多くなく、住民の方々のお話でも家族の方がお仕事などで一旦集落を離れても戻ってきたいとおっしゃるようです。それだけ住みよく魅力的な場所となっています。

明日香川を渡る「想い」の橋

少しだけ昔の日本を想像してみましょう。
日本という国が、まだ今のように発展する前、夜は街頭すらなく月の灯りが頼り。集落の中も静まり返った中でテレビも無く、頭の中は川の向こうにいる大切な人に会いたい気持ちだけ。

「明日香川 明日も渡らむ 石橋の 遠き心は 思ほえぬかも」
これは万葉集の一首ですが、携帯電話もなく、メールやラインといったサービスもない時代に、暗闇の中、川を渡り会いに行くことさえ簡単ではない夜。会えない時間が永遠に続くような切なさも感じさせます。そんな歌に詠まれた飛び石（石橋）と歌碑が稲渚の棚田にあります。そしてもう一首、「明日香川川淀さらず立つ霧の思ひ過ぐべきーにあらなくに」。

かつて栄えた都への望郷の念、日本の中心とも言えたこの場所に、今とは違い不便ながら人々が想いを馳せていた時代を想像しながら訪れてみてはいかがでしょうか。



"お腹"が恋するグルメ情報



飛鳥鍋

奈良県の郷土料理でも知られるミルク鍋の元祖とも言えるのが飛鳥鍋！その名の通り、料理が生まれたのは飛鳥時代だそうです。当時、唐から来た渡来人の僧侶が、寒さをしのぐためにヤギの乳で鍋料理を作ったのが始まりだとか。

鶏肉と野菜がいっぱいでヘルシーなのに、牛乳のまろやかさが箸を止めさせてくれません！明日香村でも食べられますし、奈良駅周辺などでも食べられます！お越しの際は一度お試しください！

近隣のおすすめスポット



飛鳥寺
〒634-0103
奈良県高市郡明日香村飛鳥682
0744-54-2126



キトラ古墳
〒634-0134
奈良県高市郡明日香村大字阿部山243
0744-54-2441



石舞台古墳
〒634-0112
奈良県高市郡明日香村島庄254
0744-54-4577

